

## 令和5年度 第1回 諫早市社会教育委員会議 議事録

日 時： 令和5年7月19日（水） 15：30～17：00

場 所： 諫早市民センター 第3講座室

### 出席者：【社会教育委員】

平山仁委員、石丸民世委員、矢川豊彦委員、松山綾委員、平古場信一委員  
高戸幸恵委員、日野涼子委員、西川亨委員、菅原良子委員  
※欠席委員： 平湯隆一朗委員

### 【事務局】

石部邦昭（教育長）、竹島健吾（生涯学習課長）、佐藤亨（同課長補佐）  
山下美喜夫（同参事補・指導主事）、麻生春奈（同主任）

議 題：（1）令和4年度社会教育委員会議（審議内容）のまとめについて  
（2）令和5年度研究大会について  
（3）その他

（議長）

皆さんこんにちは。皆様のお手元に本日の会議資料が用意されています。その式次第の中で、三つの議題が予定されています。まず一つ目が令和4年度社会教育委員会議の審議の内容のまとめについて。二つ目は令和5年度の研究大会の参加について。三つめはその他についてとなっています。その中で、一つ目の議題である審議のまとめが、今期の私達の意見の集大成という事になりますので、発言の仕残しが無いようぜひお願いしたいと思います。

それでは、まず一つ目の社会教育委員会議審議内容のまとめについて事務局から資料説明をお願いします。

（生涯学習課長補佐）

—資料に基づき説明—

（議長）

はい、ありがとうございます。

それでは、今代表的な意見についてまとめていただいた内容を説明していただきましたが、皆様のそれぞれ所属する団体のところも、新型コロナウイルスが5類に移行して3ヶ月もたったので大分変わってきたんじゃないか、あるいは戻ってきたというところでしょうか。

そこら辺のことも含めまして、ウィズコロナ、アフターコロナでの社会教育の在り方について、皆さん方からいただいた意見全体を振り返って、特に補足したいという点がありましたら発言いただきたいと思います。

(委員)

私は今中央公民館に勤務しているんですが、公民館は社会教育の最前線の施設であるとよく言われているんですが、公民館の役割は何かというと、一つは人づくり地域づくりなんです。ただそれを実践するには一人一人が、お互いに協力し合ったりしなきゃいけない。人と人の繋がりづくりというのが大切ではないかと。

あまりここで私が纏めてしまうと、そのまま進んでしまいそうなので、ここではふんわりした内容に留めて後は皆さんにお渡ししたいと思います。

(委員)

私の所属する団体では図書ボランティアもやっているんですが、今月ようやく総会ができて今年度の事業計画ができました。あと一番進んだのは高来地域で通学合宿が再開することです。私もその一員として関わらせていただいています。

とはいっても、コロナ禍前は公民館に丸投げして実施していたので、今度自分たちでどうやっていくのか模索中です。

(議長)

はい。今通学合宿の話が出ましたが、通学合宿といえば西諫早地区ですね。

(委員)

まだ実行委員会には行ってないんですが、ただ4年も経つとやるとなると億劫になります。今まで継続しているならばこんなに負担になる思いはしないと思います。この4年間、前は76歳の方は80歳になっています。80歳の方は84歳。やはりそう考えるともっと若い60代の世代を育てないといけない。今までの実行委員ではかなりの高齢化となっています。通学合宿はこれまで10回やってきて今回11回目となりますが、これまではやろう

という雰囲気は毎回高まっていたんですが、今回話を聞いてみると皆歳をとったということ  
を口にしていきます。地域の人たちが苦になっているのを感じます。やはり60歳世代の若い  
人材の掘り起こしをやっていく必要があります。今度実行委員会をしますが参加するよう声  
掛けをしています。以前は生涯学習課の指導主事も加わっていただいていたので、ですから  
今回も是非関わっていただき、地域の悩みを共有してもらいたいと思います。

(議長)

それは湯江小の校長先生が、生涯学習課の指導主事をしていたころだったと思います。そ  
の頃のように戻って始めていく必要について話していただいたと思います。

健全育成会ではどうでしょうか。

(委員)

健全育成会の方では通学合宿はやっていませんが、私の地域の飯盛町ではどういった訳か  
コロナが始まってからキャンプ活動を実施してきました。そこで撮った写真をCDに焼いて  
子ども達に持たせたりもしています。今年もやろうと計画していますが、できれば飯盛地  
域の子ども達だけではなく市内全域から参加してもらいたいと考えています。また3泊4日ぐ  
らいで他県の子ども達と交流ができる機会を作りたいと思います。

(議長)

ありがとうございました。アフターコロナ・ウィズコロナでの意見としては、ご意見のよ  
うに4年間のブランクが大きいということと、新たに組織を見直す必要があるというところ  
が大きな所ではないかと思えます。

それでは事務局の方にお尋ねしますが、現在通学合宿を始めようとしているところの情報  
があれば教えてください。

(生涯学習課参事補)

現在、通学合宿の開催を決めているところは4地区あります。高来西、西諫早、御館山、  
諫早の4地区は開催日も決めています。また、これから検討しているところもあります。加  
えて、長田と有喜は今年は開催しないことが決定していると聞いています。理由は長田が創  
立150周年記念行事を控えていてそちらに力を注ぐということと、有喜は久しぶりに相撲  
大会を復活させるということに力を注ぐということでした。

(議長)

4地区以外にも開催するところがあといくつかあるのかなとは思いますが、私たちも推進していくための具体的な手立てについて引き続き考えていきたいと思えます。

それでは、いくつかのテーマの関連でも結構ですが、特に地域と学校が協働して進める取り組みについて、PTAではいかがでしょうか。

(委員)

本年度に入ってPTAの活動もどんどん復活してきているんですが、何とか記憶を呼び起こしながらしているところです。やはり4年の空白があり、今の保護者には何も活動がないということが当たり前になってしまっており、活発に活動してきた時期を知っている保護者との温度差が出てきています。そういう状況の中、省いてもいい活動はあると思えますが、やはり残していくべき活動もあると思うので、その辺の棚卸的な整理をしていくべきではないかと考えています。

(委員)

今お話しを伺った中で、諫早市PTA連合会では、昔から継続した取組を見直して、もっと新しい取組に変えていくべきではないかという意見が出ていると聞いています。

(委員)

改革委員会というのを立ち上げて協議を進めているところです。

(委員)

私達少年補導員の方での飯盛地域では、東西の小学校と中学校の先生達と一緒に懇親会をやっています。コロナ禍ではやれなかったんですが、今年は校長先生や教頭先生にも声を掛けて開催することもできました。

その中でPTAの役員さんの話も聞いてみたいという意見も聞かれましたので、同じように親睦の機会ができたらいいのではないかと思います。

(議長)

地域連携協働という動きにおいて、コロナ禍の3年間、4年間を埋めるために、お互いに一緒に何かやりましょうという動きがあれば、コロナ禍の中で見直しになったものもあって、

特に運動会が午前中開催となってしまいました。逆に言うと午前中だけでもよかったのではないかといった意見もあるようです。

働き方改革という考え方もでてきましたが、学校の立場としてはいかがでしょうか。色々切っていくべきこともあるのでしょうか。

(委員)

運動会や体育大会に関していうと、半日でやってみて思ったより成果があったと思います。半日やって半分の成果だろうと思っていましたが、運動会や体育大会の目的とするものはある程度できたのではないかと考えています。その上で、子ども達を早い段階で家に帰すことで、子供が親に運動会の話をして反省ができる時間が作ることができたのではないかと考えます。そういった面では、考え方を改めて半日日程で、中身を充実させることもできるという雰囲気は持てたのではないかと考えますし、先生たちの働き方改革にも繋がったのではないかと考えます。

私達の頃は7月になると一斉に家庭訪問に行っていて忙しくしていましたが、今は夏休み期間も増えていきますし、良し悪しは別として逆に今は家庭には出向かず、学校での二者・三者面談となっているようなところもあります。やっぱりスタイルは変わってきていて、それがお互いの納得いくもので受け入れられるものであればいいことだと思います。

(議長)

学校教育の立場からのご意見を伺いながら、変わっていくもの、変えていくもの、どこかで調整していかなくてはいけないところもあることが伺えました。

元に戻すということは難しくなっていると思うところです。

(委員)

この3年間コロナで規制がありながらも、学校が運動会をしてくれて先生方のおかげで私達も何とか盛り上がってこれた時期でありました。子ども達も人との繋がりが好きなので、学校生活を楽しまたいと感じているようでした。子ども会の活動においては、キャンプ講習会を計画してもコロナの関係で飲食ができない、ポップコーンをカセットコンロで作ったとしても試食ができない。そういった制限のある中でも実施はしてきました。最近はその制限もなくなって、今回防災食づくりを開催することができるようになりました。子ども達に作り方を教えるというよりは、どうすればいいかという語り掛けして、なるべく大人たちは口を出さないようにして子ども達に考えさせることを意識しながら実施しました。できな

いところがあって失敗もありましたが、子ども達の生きる力を大人たちが感じれた活動になったのではないかと思います。

その中で今回は今までとは大きな違いがあって、保護者に了解をとった上でInstagramやユーチューブにアップして情報を発信する取り組みを行い、参加した人にも記憶に残るものとなりました。

また、この社会教育委員会議の繋がり、西諫早小学校のディキャンプに参加させてもらった際に、大学の学生さんたちがボランティアで参加して頑張っている姿を見て、そのことがとてもすばらしく印象にあったので、今回の私たちの防災食づくりにも学生さん達に参加していただきました。

(議長)

地域づくり協働活動といえば、婦人会にも地域から色々と協力依頼があると思いますが、ここ3年の活動からここ数か月の活動というのは何か変化がありましたか。

(委員)

ここ3年比べて数ヶ月にいろんな動きが変わってきています。大きな行事は2年ぐらいやってはいないんですけど、この間もバザーをしまして、災害のあったところに少しでも支援がしたいということで、それにはバザーの開催が一番大事なんです。コロナ禍では2年はしていなかったんですけど、縮小してやり方を考えてみんなで努力して活動を徐々にやってきました。地域に行くとそれぞれの行事があって、地域の人は婦人会を頼りにしてくださるので、みんな要請があればそれぞれの地域に出向いています。通学合宿についてもやりたいという方向で会議は重ねていたんです。コロナでできないと言いながらも話合いは続けていこうとしていました。日数を短くしてまずやってみようとなって、そのときに始めたのがきっかけで、それがとても成功したので、それがずっと思い出になっていましたので、私達は健全育成で何とかやろうとしております。とりあえず2泊3日でやる計画でいろんな分野の人に声をかけて今度実行委員会をする予定です。

ところで婦人会では原発問題についても、佐賀の原子力発電所にとりあえず見学に行ってお話を聞いてみようとしております。高齢化になってきておりますけど、何とか前向きにどうにか若い人を取り込みたいと考えながら取り組んでまいります。

(議長)

ありがとうございました。①②③のテーマを振り返って皆さんからいろんな御意見をいただきましたんですが、まとめをお願いしていいですか。

(委員)

いくつか考えられる要素があると思うのですが、まずコロナ禍の中で、それぞれどういう活動をしてきたかによって今後のあり方は変わってくるかなと思います。4年間全くやらなかったところと、今お話があったようにコロナ禍でも少しずつ活動してきたところとでは、大きく違うものとなると思います。

4年間やってなかったところは、復活させていくにも元のようにはなかなか難しいでしょうし、さっきの活動の棚卸という話があったんですけれども、まずはできることを一つずつ丁寧にしていく中で、思いを共有していくということが大事になるのではないかと思います。先ほどPTAの方から話があったように、やったときの楽しさを知っている方と、面倒なのでもうやめてもいいと思っている方の二極化が進んでいる感じがします。学生を見ているとそれは感じていて、例えば人との関わりとかも、制限を解除したからもっと活動や人と関わっていきたいっていう学生もいれば、関わらない楽しさというものを感じている学生もいて、そのような学生は良くも悪くもすごく相手のこと気遣ったり、横並び意識が強かったりするんで、その結果もうしなくてもいいかとなる。このように学生にも二極化が進んでいるように感じます。

でも、そういう学生も本当に関わりを持ちたくないかというところではなく、実は寂しさを抱えていることもあるので、そういった気持ちの掘り起こしとか共有化があってもいいのではないかと思います。それとコロナ禍の中で子ども会の会員が減少したり活動がなくなったりという話がありますが、連合婦人会にも同じような課題も抱えていてどこも同じ悩みを抱えているように感じています。ですから単体での活動が難しくなっていると思いますので、それぞれが得意な分野を持ち寄って情報を共有して協力しあいながら、地域のいろんな活動に取り組める仕組みができるといいのではと思います。ですからコロナ禍の中で活動ができなかったことを逆手にとって新たな取り組みに繋げていける良いきっかけになるといいと思います。

(議長)

ここで5分間休憩をとります。

— 5分間休憩 —

(議長)

それでは後半、④⑤⑥のテーマについて、公民館の活性化、そして社会教育における福祉や防災などの課題、社会教育の拠点となる施設について、言い残しがないように御意見を伺っていきたいと思います。

(委員)

そうですね。私が中央公民館に来て3ヶ月が経ちますが、今感じていることの一つにここは自主学习グループがたくさんあって、活動も熱心にされています。とても熱心で頑張っておられるんですけども、これは公民館の使命でもあると思うのですが、せっかくそこまでされているその活動を、もっと地域に還元したり、地域づくりに役立たせるようなところで持っていかなきゃいけないのではないかと思います。

それともう一つは、利用される方達に公民館がどういう施設であるかということを知らない人が圧倒的に多く、私達公民館業務に従事している者を店の店員ぐらいにしか思っていないという方がいるということです。クレームを言ったり、ここはこうしてくれとかそんな要求が多いのが現状です。本当はそれは違いますよ、ここは教育施設なんです。ここでは学んでそして自立をしていく。公民館はそういう施設なんですと、利用者に伝えることができないかを感じているところです。

最初にも言いましたが、公民館が社会教育の最前線の施設であると言いながら、その公民館が目的を失ってしまっている気がします。

(議長)

カスタマーハラスメントとはよく言いますが、公民館職員は苦情処理係とは違いますよね。私達社会教育に携わる者が公民館の新しいあり方について改めて考え直すことは大事ですが、利用者に考え直してもらうことも大事であるという事ですね。

飯盛地域の公民館についてはいかがですか。

(委員)

飯盛ではコロナ禍の中での公民館は、まるで空き家になったかのような状態でした。

(議長)

メディア安全指導員で飯盛に訪問した時には毎年地域と学校が懇談会を必ず夏前にやっていてそれを20年、30年ずっと続けていたことを聞いていました。

(委員)

今年も計画はされていたようなんですが、PTAや子ども会が反対したようです。農繁期で忙しいという理由のようでした。

(議長)

それでは次に、福祉や防災などの課題について何かご意見はありませんか。

(委員)

こういったご時世ですから、認知症の方に対する地域での対応であるとか考えていく必要があるのではないかと思います。でもそういう仕組みを立ち上げるとなると担当する人たちは民生委員ではないかと思いますが、その人達の負担が増えることが心配です。

この高齢化の時代に西諫早地区は市内でも一番高齢化率が高くなっています。西諫早地区の民生委員さんは、一人当たり見守りが必要な一人暮らしの高齢者を30件も40件とか受け持っていますから、そういった面で新たにそういった組織を立ち上げるにしてもその辺の課題の解決が必要になってくると思います。

(議長)

今のお話からも社会教育と福祉は様々な観点から繋がっていると思います。地域福祉に民生委員や婦人会が担っている部分は多くありますから、新たな仕組みづくりが必要になった時にその人たちの負担が増えることが懸念されます。

前半の地域連携協働の議題でもご意見があったように、地域にはいろんな組織があるので、相互にうまく協力できればいいのではないかという話と繋がるようにも思います。

それと、大学生の関わり方や、ジュニアリーダー、シニアリーダーをどう育てていくかという話も含め、来年度以降の諫早市の社会教育の課題としていく必要があるのかもしれない。

(委員)

もう一つ付け加えさせてください。私達の地域の学校支援会議では、もっと他の部門からのアドバイスをいただけるよう、今年度から市内大学の先生にメンバーとなっていていただいています。また来年ぐらいには学生さんにも1人ぐらい入っていただけたらと考えています。

通学合宿も同じですが、学生ボランティアもコロナ禍の4年が経つと経験者がいないんです。児童にしても4年生以上としていますから、児童の経験者もいません。ここで必要になってくるのが多くの方々の協力です。

(議長)

学校支援会議に学識経験者が入って、そしてさらにそこに学生が入るという事例はこれまでに私は把握していません。

(委員)

その辺はどうですか。他所の地域にはありませんか。

(生涯学習課参事補)

ありません。

(議長)

先ほどPTAの方から意見をいただいたように、これからは棚卸しとともにまた新しい組織づくりを進めていくことが求められるという事ですね。そこからまた新しいジュニアリーダーやシニアリーダーが生まれることも期待ができますからね。

(議長)

私達社会教育委員の2年間のまとめとして6つのテーマについて振り返ってまいりましたが、これらについては教育委員会に具現化してもらうよう事務局に上げられる形になったのではないかと思います。

それでは、全体的なまとめをお願いしてもよろしいでしょうか。

(委員)

どこの地域でも抱えている課題が時期リーダーの育成だと思います。私は学生がボランティアであちこちの地域に関わらせていただいております、その点はすごく大きな役割を担っているのではないかと考えています。通学合宿もそうなんです、自分が幼少時代や学生時代に、その地域の人と関わって一緒に経験することが大人になってから、自分たちがその地域に関わろうとすることに大きく影響するのではないかと思います。ですから、先ほどらお話をいただいたように、学校支援会議に学生が委員として参加することはとても重要であ

と思うし、通学合宿のボランティア活動の中で地域の人達がどれだけ子どものことを考えて、忙しいながらもどんな取組をしているのかを知ることがすごく大事な機会であると思っています。それが将来、地域でいろんなことに関わっていこうという思いに繋がっていくと思います。しかし、それは今すぐの課題の解決にはならないと思うんですが、こういった地道な取組が大事になってくるものと思います。

あと、公民館の活性化の事なんですが、公民館は今過渡期にあると思います。公民館は元々日本が戦後敗戦の中で地域の復興という使命を受けて造られたという経緯を考えると、都市化であるとか高度成長期の中で、公民館活動のあり方というのは時代と共に変わってきたと思います。ただ今は、これだけ地域づくりの拠点と言われ、コロナ禍で断ち切れた人々の繋がりを回復していこうという中で、公民館のあり方も少し変わって行っているんじゃないかなと思います。ですから、先ほど意見があったように公民館がどういうところかということ地域の人に伝えていくっていうのも大事ですし、通学合宿をしようとするときの悩みを共有する場として公民館を利用したりすることも必要となってくるのではないかと思います。

(議長)

まとめの話聞きながら思い出したことが一つあります。もうすぐ7月23日、大水害の日です。私は長崎県脳性麻痺の会で行う交流キャンプに10年ぐらい関わっていたんですが、ちょうどあの日はキャンプができないで、私は矢上におりまして、そこが一番大きな交差点付近の店で飲み会に参加していました。私はあそこが水害に合う10分前に車で出たので被害から逃げるのができたんですが、その時に一緒に水の中を逃げたメンバーと今年40年ぶりぐらいに会ったんです。そこにたまたま一緒に来ていた人が県社協の職員だったり、長崎の市P連の役員をしていたり、みんなそれぞれが障害を持ってたりするんですけど、その人達は率先して外に出ていくことで地域を変えた人達だったんです。そんな人たちが30年、40年経って地域で色々なことに携わっている人間になっているということ、先ほどの西諫早の学生さん達が地域との関わりを持っているという話から私が思い出した話でした。

(議長)

次に議題の(2)令和5年度研究大会につきまして、事務局より資料の説明をお願いします。

(生涯学習課長補佐)

本年度に2つの研究大会が予定されています。

- ・令和5年度長崎県社会教育研究大会
- ・第65回全国社会教育研究大会宮崎大会

これにつきましては、資料のP8～13までとなります。

— 資料に基づき説明 —

この2つの研究大会ですが、委員の皆様全員にご参加をお願いしたいところではございますが、予算の都合上人数が限られております。

- ・令和5年度長崎県社会教育研究大会 4人
- ・第65回全国社会教育研究大会宮崎大会 1人

ここで、皆様に参加する人選につきまして協議をお願いいたします。

(議長)

それでは、事務局から説明がありましたように、参加の人選につきまして協議いたします。

【意見交換】— 人選決定 —

皆さんどうぞよろしく申し上げます。

(議長)

次に議題の(3)その他に移ります。

まず事務局より連絡事項があるということですので、事務局より説明をお願いします。

(生涯学習課長補佐)

[連絡事項]

- ・社会教育委員の退任者・新任者の紹介(以外は継続にて紹介)
- ・8月1日の辞令交付式及び第1回公民館運営審議会の案内
- ・令和5年度社会教育委員会議の日程(10月第2回会議で教育委員との懇談会を提案)

(生涯学習課長)

— 4月人事異動による就任の挨拶 —

(議長)

以上、社会教育委員会議の本日の議題は全て終了しました。

今回の審議で皆様からいただいた内容につきましては、事務局において整理していただき、今後の会議において報告いただきますようお願いいたします。

皆様、活発なご意見とご提案をいただきありがとうございました。

— 終 了 —